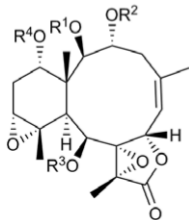


31E13-pm04

八重山諸島産軟体サンゴより単離した新規ブリアラン型ジテルペノイドの構造
太田 浩一朗¹, 岡本 尚子¹, 見留 英路², 〇宮岡 宏明¹(¹東京薬大薬, ²松山大薬)

【目的】我々は海洋生物由来の新規生物活性化合物の探索研究の一環として、沖縄県八重山諸島石垣島近海で採取した *Briareum* 属の軟体サンゴに含まれる新規化合物の探索と化学構造の解明を目的に本研究を行った。

【結果】*Briareum* 属の軟体サンゴ(湿潤重量 177g)を MeOH および acetone で順次抽出し、得られた MeOH 抽出物をシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて分離・精製を行った結果、新規 briarane 型ジテルペノイド **1-7** を単離した。これら化合物の特徴的な構造および得られた軟体サンゴの学名より briaroxalide A-G と命名した。Briaroxalide A-G (**1-7**)の絶対配置を含めた構造は、各種 NMR, X 線結晶構造解析および化学変換により下記のように決定した。



- briaroxalide A (**1**): $R^1 = H$, $R^2 = Ac$, $R^3 = H$, $R^4 = Ac$
briaroxalide B (**2**): $R^1 = H$, $R^2 = H$, $R^3 = Ac$, $R^4 = Ac$
briaroxalide C (**3**): $R^1 = H$, $R^2 = Ac$, $R^3 = Ac$, $R^4 = Ac$
briaroxalide D (**4**): $R^1 = H$, $R^2 = H$, $R^3 = Ac$, $R^4 = H$
briaroxalide E (**5**): $R^1 = H$, $R^2 = Ac$, $R^3 = Ac$, $R^4 = H$
briaroxalide F (**6**): $R^1 = Ac$, $R^2 = Ac$, $R^3 = Ac$, $R^4 = H$
briaroxalide G (**7**): $R^1 = Ac$, $R^2 = H$, $R^3 = Ac$, $R^4 = Ac$